

**2026 年 04 月 改訂 (第 4 版)

*2022 年 10 月 改訂 (第 3 版)

医療機器届出番号 13B1X10253000001

機械器具 58 整形用機械器具
一般医療機器 骨手術用器械 (JMDN コード 70962001)

スコピオンインスツルメント

【禁忌・禁止】

当社の指定する製品以外の医療機器と併用しないこと。
[相互作用の項参照]

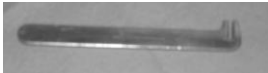
【形状・構造及び原理等】

1. 体に接触する部分の組成
ステンレス鋼、アルミニウム
2. 形状

- (1) 骨把持用鉗子



- (2) ベンダー



- (3) ドリル先



- (4) ドリルガイド



- (5) デプスゲージ



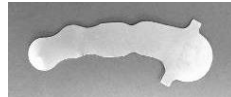
- (6) スクリュードライバー



- (7) スクリューホルダー



- (8) スコピオン用トライアル



- (9) スーチャーパッサーSCP 用 R



- (10) スーチャーパッサーSCP 用 L



- (11) SCORPION NEO 用トライアル



- (12) SCP 用圧着ペンチ II



- (13) ミニドライバー



- ** (14) シリコン製ミニドライバー



3. 原理

- (1) 骨把持用鉗子
スコピオン(Ti)と鎖骨を把持固定するために使用する。
- (2) ベンダー
プレートベンディングのために使用する。
- (3) ドリル先
スクリューの下穴を開けるために使用する。
- (4) ドリルガイド
ドリルを使用する際に、ガイドとして使用する。
- (5) デプスゲージ
骨孔の長さを測定し使用するスクリューの長さを決めるために使用する。
- (6) スクリュードライバー
スクリューをねじ込むために使用する。
- (7) スクリューホルダー
スクリューをケースから取り出す際把持し、又ねじ込むまで把持し支えとするために使用する。
- (8) スコピオン用トライアル
プレートのサイズを決定するために使用する。
- (9) スーチャーパッサーSCP 用 R
鎖骨周囲組織に右巻きに結節糸等を貫通させるために使用する。
- (10) スーチャーパッサーSCP 用 L
鎖骨周囲組織に左巻きに結節糸等を貫通させるために使用する。
- (11) SCORPION NEO 用トライアル
プレートのサイズを決定するために使用する。
- (12) SCP 用圧着ペンチ II
プレートを鎖骨に圧着させ固定するために使用する。
- (13) ミニドライバー
スクリューを締結するために使用する。
- ** (14) シリコン製ミニドライバー
スクリューを締結するために使用する。

【使用目的又は効果】

本品は、骨接合手術等の骨手術に用いる手動式の手術器械である。

【使用方法等】

1. 滅菌
本品を使用する前に必ず滅菌を行う。(滅菌方法については、【保守・点検に係る事項】参照)
2. 使用方法
 - (1) スコピオン用トライアル、又は SCORPION NEO 用トライアルを患部に当て、さらに必要に応じて曲げ、鎖骨形状の確認を行い、使用するプレートのサイズを決定する。
 - (2) 必要に応じて、予めプレートをベンダーでベンディングし、圧着ペンチで鎖骨に圧着する。必要に応じて骨把持用鉗子で鎖骨とプレートを把持固定し、圧着を行う。
 - (3) ドリル先、ドリルガイドにて、スクリューの下穴を作成する。

手術手技書を必ずご参照下さい

- (4) デプスゲージにて、適切なスクリューのサイズを測定する。
- ** (5)** スクリュードライバー、ミニドライバー、又はシリコン製ミニドライバーにて、スクリューをねじ込む。スクリュードライバーを使用する際には必要に応じてスクリューホルダーを用いる。
- (6) 必要に応じてスーチャーパッサーSCP 用 R 又はスーチャーパッサーSCP 用 L にて鎖骨周囲組織に結節糸等を巻き固定する。
- ** (7)** 抜去の際は、スクリュードライバー、ミニドライバー、又はシリコン製ミニドライバーにより、すべてのスクリューを抜去し、適切な機器を使用しフックを十分に広げる、又は切り落とす。その後、プレートを持ち上げて抜去する。
3. 使用方法等に関連する使用上の注意
- ** (1)** スクリュードライバー、ミニドライバー、及びシリコン製ミニドライバーは、先端がびったりとスクリューヘッドに挿入された状態で慎重にスクリューを回すこと。
- (2) 術中に他の医療機器と接触しないように注意し、万一接触した場合は相互に折損や破損の有無を点検して、破損が認められた際には破片が体内に残留していないか確認する等適切な処置を行うこと。
- * (3)** 抜去の際に切り落としたフック及び破片が体内に残留しないよう適切な処置を行うこと。
- * (4)** 術中に他の器具と接触しないように注意し、万一接触した場合は相互に折損や破損の有無を点検して、破損が認められた際には破片が体内に残留していないか確認する等適切な処置を行うこと。
- * (5)** 本品がハイリスク手術に使用された場合には、プリオン病感染予防ガイドラインに従った洗浄、滅菌を実施すること。
- * (6)** 本品がプリオン病の感染症患者への使用及びその汚染が疑われる場合には、製造販売業者又は貸与業者に連絡すること。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

金属や異物に対して重篤なアレルギーがある患者にはアレルギー発現の恐れがあるため慎重に適用すること。

2. 相互作用

＜併用禁忌＞（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
他メーカーの製品（指定製品以外）	機器が正常に作動しなくなる恐れがある。	機器の変形、破損

＜併用注意＞（併用に注意すること）

- (1) 塩素系及びヨウ素系の消毒剤は、腐食の原因となるので、できるだけ使用を避けること。使用中に付着したときには水洗いをする。
- (2) 強アルカリ／強酸性洗剤・消毒剤は、器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けること。
- (3) スクリューホルダーはスクリュードライバー以外の機器と組み合わせて使用しないこと。
3. 不具合・有害事象
- 本品の使用により起こり得る不具合・有害事象を以下に記載する。以下のような不具合・有害事象が認められた場合は、使用を中止し直ちに適切な処置を行うこと。
- (1) 重大な不具合
- ・製品の変形・破損
 - ・不適切な使用による破損片等の体内留置
- (2) 重大な有害事象
- ・感染
 - ・アレルギー反応
 - ・神経の損傷、麻痺、疼痛
 - ・骨折、穿孔、骨の亀裂
 - ・血管損傷等
 - ・筋肉・繊維組織等の弛緩、損傷
- (3) その他の有害事象
- ・痛み、不快、違和感不具合

4. 高齢者への適用
- 骨粗鬆症等、骨形成、骨量・骨質が十分でない患者は、術中に過度の力(応力)を加えることにより、上記の不具合・有害事象が発生する可能性があるため、慎重に使用すること。
5. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用
- 小児へ適用する際、骨形成、骨量・骨質が十分でない患者は、術中に過度の力(応力)を加えることにより、上記の不具合・有害事象が発生する可能性があるため、慎重に使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

- ・洗浄した後、腐食を防ぐために保管期間の長短にかかわらず、十分に乾燥させること。水濡れに注意すること。
- ・直射日光及び高温多湿を避け、室内で清潔な場所に保管すること。

【保守・点検に係る事項】

＜滅菌方法＞

本品は未滅菌品であるため、以下の推奨滅菌条件を参考に医療機関内で無菌性保証が担保された条件で滅菌を行う。

〔推奨滅菌条件〕

滅菌方法：高圧蒸気滅菌

滅菌条件：115～118℃ 30 分間

121～124℃ 15 分間

126～129℃ 10 分間

＜洗浄方法＞

1. 使用後は、できるだけ早く血液、体液、組織等の汚物を除去し、感染防止のために洗浄・消毒すること。
2. 汚染除去に用いる洗剤は、洗浄方法に適したものを選択し、適正な濃度で使用する。
3. 洗浄装置（超音波洗浄装置、ウォッシャーディスインフェクタ等）で洗浄するときには、刃物同士が接触して刃先を損傷することがないように注意をすること。又、可動部は開放して、汚れが落ちやすいようにバスケット等に収納すること。
4. 洗剤の残留がないように十分にすすぎをすること。仕上げすぎには、浄化水（濾過、蒸留、脱イオン化等）を用いることを推奨する。
5. 洗浄後は、腐食防止のために、直ちに乾燥させること。
6. 洗浄には柔らかいブラシ、スポンジ等を使用し、金属たわし、クレンザー（磨き粉）等は、機器表面が損傷するため使用しないこと。
7. 中空構造を有する機器はブラシなどを使用して洗浄すること。

＜使用者による保守点検事項＞

1. 可動部の動きをスムーズにするために、水溶性潤滑剤を塗布することを推奨する。
2. 使用（滅菌）前に、汚れ、傷、曲がり、刃の損傷、可動部の動き等に異常がないか点検すること。
3. 点検後、セット・包装をし、高圧蒸気滅菌をすること。なお、滅菌のためのセット・包装にあたっては、確実に滅菌できるよう配慮すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社A i m e d i c M M T

電話番号：03-5715-5211（代表）

手術手技書を必ずご参照下さい